

第2期中期計画の概要

～ 南和地域の医療は南和で守る ～

【地域医療構想を踏まえて南和地域において企業団が担う役割】

南奈良総合医療センター

- 地域の救急を断らない病院・南和保健医療圏における唯一の救急告示病院としての救急医療、小児救急医療、地域の中核病院としての、がん、消化器疾患、糖尿病、外傷・運動器疾患等の専門診療
- 災害時に対応する医療（災害拠点病院）へき地医療への対応（へき地医療拠点病院）在宅への連携を見据えた高齢者医療

【運営における5つの柱】

1. 企業団3病院の連携による最適な医療の提供

- ① 救急医療
 - 断らない救急医療の実施、県ドクターヘリの運航に参画
- ② 脳卒中診療
 - 救急手術、血栓溶解療法（t-P A投与）等に対応、回復期リハビリテーションの実施
- ③ 急性心筋梗塞
 - 胸痛搬送ルールに基づく医大附属病院等との連携、心臓リハビリテーションの実施 等
- ④ がん診療（地域がん診療病院）
 - がん診療の充実（内視鏡的・外科的手術及び化学的療法・緩和ケア、リハビリ等）
- ⑤ 糖尿病診療
 - 糖尿病専門医を中心とした治療、多職種連携による糖尿病合併症の重症化予防の介入強化
- ⑥ 精神疾患
 - 外来診療、精神科医療機関との連携・認知症ケアの充実
- ⑦ 周産期医療
 - 妊産婦健診・新生児健診の実施、分娩は医大附属病院で対応する周産期医療体制を維持継続
- ⑧ 小児救急医療
 - 小児二次輪番病院（中南和）に参画、平日19時までの外来診療の実施
- ⑨ 高齢者医療
 - フレイル、ロコモ対策の強化、摂食・嚥下療法の強化・充実
- ⑩ 在宅医療
 - 医療ニーズが高い患者への訪問診療の実施、訪問看護の充実
- ⑪ 予防医療
 - 健診センターの充実、ワクチン接種の実施、健康啓発の充実
- ⑫ へき地医療（へき地医療拠点病院）
 - へき地診療所への支援強化
- ⑬ 地域医療連携
 - 紹介率等の向上、医療機器等の共同利用の促進、地域の医療従事者に対する研修等

2. 災害医療・感染症対策への積極的な対応

- ① 災害医療 ※ 災害拠点病院、DMAT指定病院（南奈良総合医療センター）
 - 関係機関との連携を想定した訓練の実施、業務継続計画の適宜見直し・研修及び訓練の実施
- ② 感染症対策 ※ 第二種感染症指定病院（南奈良総合医療センター）
 - 新型コロナウイルス等の新興感染症への的確かつ迅速な対応

3. 南和地域における地域包括ケアシステムの構築

- ① 在宅医療支援の強化
 - ICTの活用、地域の訪看st.との共働・補完、へき地診療所への支援等
- ② 医療・介護連携
- ③ 市町村への支援
 - 市町村の一次支援（介護予防、健康づくり、地域の見守り）に対するサポート 等



まごころをこめて良質で最適な医療を提供します
～ 笑顔と感謝にあふれる病院をめざす ～

吉野病院・五條病院

- 療養への対応、在宅への連携を見据えた高齢者医療

4. 企業団職員、地域の医療・介護職員などの人材育成

- 研修医、専門医（総合診療医等）の確保・育成
- 各部門における研修等の充実、地域の介護職員・訪問看護師等の研修支援

5. 持続可能な安定した経営基盤の確立

① 収入確保

<南奈良総合医療センター>

- 医療介護連携による入退院支援の強化等
- 病床の合理的運用、新入院患者の確保、手術件数の増加

<吉野・五條病院>

- 3病院の一体的かつ効率的な病床運営、地域の医療機関等の連携強化など
- 病床稼働率の向上、外来患者の確保

② 経費削減

- 職員給与費、材料費、経費の適正化

③ 合理的かつ計画的な投資（約33億円）

主な取組項目

- 地域の患者ニーズに対応するため、吉野病院・五條病院の病床機能を見直します
- 新興感染症に対応するため、南奈良総合医療センターに「発熱外来棟」を整備します
- 医療ニーズの高い患者の在宅での療養を支援するため、在宅医療部門を充実します
- へき地診療所と連携して、地域の保健予防や専門診療の充実に取り組むとともに、診療所への看護師の長期派遣や介護予防・健康づくりに対する医療専門職の派遣に取り組みます
- 南和地域における保健・医療・福祉分野の諸課題の解決のため、「南和市町村と県による協議の場」での議論に積極的に関わっていきます

収支見込

- 電子カルテ更新費用の減価償却が始まる令和6年度から収支が厳しくなるものの、計画期間中の累積収支は黒字を維持する。次々回の更新を見据えて、4年度の早い時期に財源確保等対応策をまとめる

